

科目番号:82

分野	専門分野 臨地実習(基礎看護学)				
科目名(必修)	患者を支える病院・看護を知る実習				
単位数(時間)	1単位(45時間)	対象学年	1年次	担当講師名	
		開講時期	前期	実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション:1時間、臨地実習:40時間(うち病院オリエンテーション:5時間)、臨地外実習:4時間				
実習場所(時間)	JCHO東京新宿メディカルセンター 外来(9時間)、診療協力部門(9時間)、病棟(17時間)				
実習目的					
患者を支える病院の様々な部門の機能と特徴、および看護の役割を学ぶ。					
実習目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の概要と機能・役割を理解できる。 2. 外来および診療協力部門の役割を理解できる。 3. 外来受診の実際、健康問題をもつ対象への理解を深める。 4. 患者の療養環境の特徴と病棟の看護師および看護補助者・クラークの役割が理解できる。 5. 看護者として、基本的な態度を身に着けることができる。 					
実習内容					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院(JCHO東京新宿メディカルセンター) <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院の沿革・機能・特徴 2) 病院(病棟)の構造・設備、環境 2. 外来(内科・耳鼻科・外科・眼科・整形外科・救急外来、健康管理センター) <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院内における外来の役割 2) 外来の構造・設備 3) 外来の看護活動の実際 4) 外来で働く他職種の役割 5) 診療科特有の患者の特徴 6) 外来診療における患者の心理 3. 診療協力部門(総合案内、医事課、臨床検査室、薬剤部、中央材料室、透析室、放射線室、栄養部、リハビリテーション室、中央監視室、清掃部門、洗濯室) <ol style="list-style-type: none"> 1) 各部門の病院における役割各部門の構造・設備 2) 各部門の仕事における仕事の実際 4. 病棟 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟の構造・設備 2) 病院・病棟における患者の事故防止・感染予防対策 3) 看護師・看護補助者の活動の実際 4) 患者の入院生活の場と1日の生活 5) 患者とのコミュニケーション 6) 入院生活における患者の心理 5. 自主的・主体的学習、研究的態度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習メンバーと協力し学びを共有する 2) 誠実で礼儀正しく、真摯な姿勢で臨む 					
評価方法					
記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号:83

分野	専門分野 臨地実習(基礎看護学)				
科目名(必修)	日常生活を整える看護実習				
単位数(時間)	2単位(90時間)	対象学年	1年次	担当講師名	看護師
		開講時期	後期	実務経験	
実習方法	オリエンテーション:1時間、臨地実習:81時間、臨地外実習:8時間				
実習場所(時間)	JCHO東京新宿メディカルセンター 病棟(81時間)				
実習目的					
入院中の患者に対し看護の基礎的知識、技術を活用し必要な援助が行える能力を養う。					
実習目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者および患者を取り巻く環境を理解する。 2. 基本的な日常生活援助を安全・安楽に留意して行うことができる。 3. 患者と援助関係を築くことができる。 4. 実践状況を振り返り自己の課題を明確にする。 5. 看護を実践する者として、基本的な実習態度を身に着けることができる。 					
実習内容					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者への基本的な日常生活援助の必要性の明確化 <ol style="list-style-type: none"> 1)入院が患者の基本的欲求と日常生活行動に及ぼす影響を分析する 2)日常生活援助を受ける患者の心理を察する 2. 患者への基本的な日常生活援助の計画立案 <ol style="list-style-type: none"> 1)日常生活援助の必要性を患者の状態から考え、説明する 2)安全・安楽に向けた日常生活援助の計画を立てる 3. 対象への基本的な日常生活援助の実践 <ol style="list-style-type: none"> 1)対象とのコミュニケーション、安全・安楽に向けた日常生活援助を行う 2)援助前・中・後の患者の状況や反応を観察できる 3)患者の観察結果および日常生活援助の状況を的確な表現で客観的かつ簡潔に記録する。 4)医療チームの一員として観察結果および患者の状況を必要性に応じた的確に報告する。 4. 患者への基本的な日常生活援助の評価 <ol style="list-style-type: none"> 1)援助後の考察から、計画の追加・修正を行う。 5. 自主的・主体的学習、研究的態度 <ol style="list-style-type: none"> 1)実習メンバーと協力し学びを共有する 2)誠実で礼儀正しく、真摯な姿勢で臨む 3)自己の在り方を省察することで課題を明確にし、主体的に学習・研鑽し看護実践能力を向上する 					
評価方法					
記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号:84

分野	専門分野 臨地実習(地域・在宅看護論)				
科目名(必修)	様々な暮らしの場で生活する人を支える看護実習				
単位数(時間)	2単位(90時間)	対象学年	2年次	担当講師名	
		開講時期	後期	実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション:1時間、臨地実習:80時間、臨地外実習:9時間				
実習場所(時間)	健康管理センター(18時間)、障害者リハビリテーション施設(6時間)、老人福祉施設(※47時間)、消防署(9時間)				
実習目的					
健康段階に応じた多様な場で暮らす対象を支える地域包括ケアシステムを理解し多職種との連携と看護を提供する基礎的能力を養う。					
実習目標					
<ol style="list-style-type: none"> 多様な場で暮らす対象及び家族を理解し、対象の健康課題を理解する。 多様な場で暮らす対象の健康課題と暮らしにおけるニーズを知る。 実際の体験を通して、地域での暮らしの場に応じた看護および関係職種の活動を理解する。 あらゆる健康段階の人の暮らしを支える社会資源とその活用方法、関連機関の連携のあり方を学ぶ。 社会的ニーズの変化を捉え地域での暮らしを中心とした看護のあり方について展望する姿勢・態度を身につける。 					
実習内容					
<p>I. 健康管理センター(JCHO東京新宿メディカルセンター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康の維持・促進における健康管理センターがもつ役割の理解 <ol style="list-style-type: none"> 健康管理センターの役割と機能 健康支援における看護師の役割 <p>II. 障害者リハビリテーションセンター(国立障害者リハビリテーションセンター、国立職業リハビリテーションセンター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 障害者リハビリテーションセンターにおける機能訓練と職業訓練がもつ機能と役割、利用者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 障害者リハビリテーションセンターの機能と役割 障害者リハビリテーションセンターを利用する人々 社会復帰に向けた機能訓練・職業訓練の実際 <p>III. 老人福祉施設(原町グループホーム、あかね苑、やわら樹の里)</p> <ol style="list-style-type: none"> 老人福祉施設における看護活動と関係職種の機能と役割、利用者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 施設の機能と役割 施設内で暮らす人と暮らしの実際 施設内での看護師および関係職種の役割 施設内での療養を支援する社会資源と関連機関や多職種の連携 <p>IV. 消防署(東京都消防庁)</p> <ol style="list-style-type: none"> 多様な場で暮らす対象を支える消防署がもつ機能と役割と利用者の特徴および状況の理解 <ol style="list-style-type: none"> 対象を取り巻く人的・物的環境 救急車を要請する状況、対象および家族の心理 救急活動と医療連携の実際 					
評価方法					
記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
※老人福祉施設: デイサービス(20時間)、グループホーム(18時間)、老人ホーム(9時間)					

科目番号:85

分野	専門分野 臨地実習(地域・在宅看護論)				
科目名(必修)	地域で暮らす療養者を支える看護実習				
単位数(時間)	2単位(90時間)	対象学年	2年次	担当講師名	
		開講時期	後期	実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション:1時間、臨地実習:73時間、臨地外実習:1時間				
実習場所(時間)	患者サポートセンター・病棟(37時間)、訪問看護ステーション・看護小規模多機能型居宅介護事業所(36時間)、地域包括支援センター(9時間)				
実習目的					
看護が必要な対象を支える地域包括ケアシステムを理解し多職種と連携して看護を提供する基礎的能力を養う。					
実習目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の暮らしを支えるシステムを理解し、対象の健康課題とその支援方法を理解する。 2. 退院支援における看護の役割と多職種との連携、調整を理解する。 3. 多様な場で生活している対象及び家族の生活の諸要素を知る。 4. 実際の体験を通して、対象やその家族の生活の場に応じた援助技術・指導技術を理解する。 5. 社会資源の活用方法と関連機関、関係職種との連携・調整のあり方を学ぶ。 6. 社会的ニーズの変化を捉え地域での暮らしを中心とした看護のあり方について展望する姿勢・態度を身につける。 					
実習内容					
<p>I. 患者サポートセンター・病棟(JCHO東京新宿メディカルセンター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす療養者の入院支援および退院に向けた患者・家族への退院支援における患者サポートセンターがもつ機能と役割の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者サポートセンターの機能と役割 2) 退院調整看護師の機能と役割 3) 入院調整における他部署との連携 4) 退院調整における医師・看護師との連携 5) 退院調整における関連機関との調整内容と地域連携・総合相談センターの役割 <p>II. 訪問看護ステーション・看護小規模多機能型居宅介護事業所(訪問看護ステーションなないろ、白十字訪問看護ステーション(坂町ミモザの家))</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養している人々や介護する家族の状況を理解し、療養者やその家族の生活に応じた看護の実際を体験する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護師の機能と役割 2) 療養者の生活環境や生活習慣および介護する家族の状況に適した日常生活援助技術の工夫 3) 療養者および家族のセルフケア能力を高めるための保健指導 2. 社会資源の活用や関連機関との連携の実際を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者が活用できる社会資源の種類および活用状況 2) 関係医療機関との連携の実際、在宅看護に必要な保健医療チームについて 3) 療養者が必要としている日常生活援助 4) 看護小規模多機能型居宅介護事業所の見学 <p>III. 地域包括支援センター(新宿区高齢者総合相談センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護、福祉、健康、医療などの面から総合的に支える地域包括支援センターがもつ機能と役割の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域で暮らす高齢者とその家族の生活および健康に対するニーズを理解する。 2) 地域包括支援センターの機能と役割を理解する 3) 地域における地域包括支援センターの実際の活動を知る 4) 包括支援事業を理解する。 (介護予防事業に関するケアマネジメント、総合相談支援事業、権利擁護事業、包括的・継続的マネジメント事業) 5) 介護予防支援業務について理解する。 					
評価方法					
記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号:86

分野	専門分野 臨地実習(成人・老年看護学)				
科目名(必修)	健康課題を持つ人を支える看護実習				
単位数(時間)	2単位(90時間)	対象学年	2年次	担当講師名	
		開講時期	前期	実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション:1時間、臨地実習:81時間、臨地外実習:9時間				
実習場所(場所)	JCHO東京新宿メディカルセンター 病棟(81時間)				
実習目的					
患者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、問題解決思考に基づいて看護を展開する能力を養う。					
実習目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を受け持ち発達段階をふまえた看護過程が展開できる。 2. 患者の個性に合わせた日常生活援助を行うことができる。 3. 看護学生としての自覚と責任感を持ち、誠実な態度で実習を行うことができる。 					
実習内容					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患を持つ患者の必要な情報収集、分析、健康上の明確化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病や障害による身体的影響を自覚症状、検査所見、診察所見から情報収集を行い分析する。 2) 患者を生活者として捉え、疾病や障害が日常生活に与える影響について観察・分析する。 3) 関連図を作成し、疾病と患者の症状、日常生活に与える影響を理解することができる。 2. 疾患を持つ患者の健康上の問題に対する看護計画の立案 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の苦痛の緩和、合併症の予防、回復促進に向けた計画を立案する。 3. 立案した看護計画を踏まえ、状況に応じた方法での実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の苦痛の緩和、合併症の予防、回復促進に向けた援助を行う。 2) 患者にあったコミュニケーション方法や安心・安全・安楽な援助を行う。 4. 根拠のある評価 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の症状や心理状態の変化から実施した援助を評価する。 2) 評価の内容を目標や計画へフィードバックし修正する。 3) 看護の実践と評価を要約して表現する。 5. 自主的・主体的に学習する態度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者を尊重し、共感的に関わる。 2) 自ら課題に対して真摯に向き合い学習する。 3) 実習メンバーと協力し学びを共有する。 					
評価方法					
記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号:87

分野	専門分野 臨地実習(成人・老年看護学)				
科目名(必修)	周術期にある人を支える看護実習				
単位数(時間)	2単位(90時間)	対象学年	2年次	担当講師名	
		開講時期	後期	実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション:1時間、臨地実習:81時間、臨地外実習:9時間				
実習場所(時間)	JCHO東京新宿メディカルセンター 病棟(81時間)				
実習目的					
急性・回復期にある患者の身体的・精神的・社会的側面への影響をふまえ、回復促進に向けた看護実践能力を養う。					
実習目標					
<ol style="list-style-type: none"> 手術侵襲に伴う生体反応と、患者の防衛力、予備力、適応力、回復力の状態をふまえ、全身状態のアセスメントができる。 周術期にある患者の経過に応じて、生体機能の恒常性の維持、苦痛の緩和、回復の促進に向けた援助ができる。 退院後の生活をふまえて患者とその家族への退院支援ができる。 					
実習内容					
<ol style="list-style-type: none"> 周術期の患者の情報収集、分析、健康上の問題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> 病状と麻酔・手術侵襲による影響を考慮した現在の状態の観察と分析 患者の予備能力、加齢に伴う機能低下をふまえ、病状と手術侵襲による影響、日常生活に及ぼす影響から二次的障害の明確化 身体症状・治療が精神状態や日常生活に及ぼす影響の分析と二次的障害の予測 日々変化する状態や予後に対する患者及び家族の心理状態をふまえた分析 周術期にある患者の看護上の課題に対する看護計画の立案 <ol style="list-style-type: none"> 疾病・術式および患者の個性から予測される合併症の早期発見・対応、または予防に関する看護計画を立案する 患者の苦痛を軽減するための看護計画を立案する 症状の悪化、合併症予防の援助を立案する 回復状態に応じ、退院後の生活状況をふまえた援助計画を立案する 立案した看護計画をふまえ、状況に応じた方法での実践を行う <ol style="list-style-type: none"> 術後の全身状態の観察 苦痛の緩和への援助 術後の回復促進に向けた離床への援助 検査処置の結果から状態を予測した援助の修正 術後の安全管理のための援助 患者の回復状況に応じた自立を促進するための援助 退院後の生活、ライフスタイルをふまえた援助 根拠のある評価 <ol style="list-style-type: none"> 急性症状の病態、高齢者の回復過程をふまえ手全身状態の評価 患者の状態の変化や反応から、現在の状態と二次的障害のリスク評価 現状について、患者の言動や客観的な観察など複数の視点から評価する 看護実践とその評価を要約して表現する 自主的・主体的学習、研究する態度 <ol style="list-style-type: none"> 周術期にある患者の看護について、時期や場面に応じた看護の必要性を自己の言葉で表現できる 周術期における家族の心理状態を考慮することができる 周術期における退院支援について、対象のセルフケア能力への働きかけを常に意図して関わる。 					
評価方法					
記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号:88

分野	専門分野 臨地実習(成人・老年看護学)				
科目名(必修)	慢性期にある人を支える看護実習				
単位数(時間)	2単位(90時間)	対象学年	2年次	担当講師名	
		開講時期	後期	実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション:1時間、臨地実習:81時間、臨地外実習:9時間				
実習場所(時間)	JCHO東京新宿メディカルセンター 病棟(81時間)				
実習目的					
慢性期にある患者の身体的・精神的・社会的側面への影響をふまえ、セルフケアに向けた看護実践能力を養う。					
実習目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 不可逆的で慢性的な経過をたどる疾患をもつ患者の健康上の問題と生活への影響を根拠を持って理解できる。 2. 患者やその家族の個性やその人らしさを尊重しながら援助を実践できる。 3. 残存機能を活かしセルフケア能力の維持や拡大への援助を実践できる。 4. 患者と真摯に向き合い、健康障害とともに生活することの苦悩に対し思いを寄せることができる。 5. 患者のその人らしい生活を支える多職種や関係機関について知ることができる。 					
実習内容					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科的疾患を持つ患者の情報収集、分析、健康上の問題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 発達段階やライフステージ、疾患および加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化、治療の効果や副作用を包括的に観察・分析する。 2) 患者を生活者として捉え、疾病や障害と日常生活が相互に与える影響について観察・分析する 3) 患者が望む生活の基盤、疾病や障害と社会的役割が相互に与える影響について観察・分析する 4) 患者の残存機能・心理的反応・知識・認知力の程度からセルフケア能力を分析する 5) 慢性疾患を抱える患者への支援の基盤となる諸理論・概念を理解する 2. 内科的疾患を持つ患者の健康上の問題に対する計画の立案 <ol style="list-style-type: none"> 1) ケースカンファレンスを通して、セルフケアの現状と課題や看護の方向性を明らかにする 2) 患者回復の促進や健康の保持増進に向けた計画を立案する 3) 患者や家族のその人らしさを生かし、持てる力を最大限に発揮できる支援方法を計画する 4) 多様な健康レベルに応じた多職種や関係機関との連携・協働について理解する 3. 計画を踏まえ、状況に応じた方法での実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学修した知識・技術・態度を統合し、個性のある看護を実践する 2) 患者に合ったコミュニケーション方法や安全・安楽な援助を行う 3) 患者の認知力や残存機能や生活様式を踏まえた健康の保持増進への教育を実施する 4) 対象のその人らしさを尊重し、セルフケア能力を最大限発揮できるように患者を擁護しながら支援する 4. 根拠をもった評価 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の症状や心理状態の変化から看護を評価する 2) 指導中、指導後の反応から対象のセルフケア能力の変化を評価する 3) 評価の内容を目標や計画へフィードバックし修正する 4) 看護の実践と評価を要約して表現する 5. 自主的・主体的学習、研究的態度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 長期に渡りセルフケアを必要とする不可逆的な慢性疾患を持つ対象の思いを尊重する 2) 自己の在り方を省察することで課題を明確にし、主体的に学習・研鑽し看護実践能力を向上する 3) 対象の生きがい、看護の意味や課題を他者からの視点や倫理的観点で振り返る 					
記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号:89

分野	専門分野 臨地実習(成人・老年看護学)				
科目名(必修)	慢性期・終末期にある人を支える看護実習				
単位数(時間)	2単位(90時間)	対象学年	2年次	担当講師名	
		開講時期	後期	実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション:1時間、臨地実習:81時間、臨地外実習:9時間				
実習場所(時間)	JCHO東京新宿メディカルセンター 病棟(81時間)				
実習目的 慢性期・終末期にある患者の身体的・精神的・社会的側面への影響をふまえ、その人らしく生活を考えた看護実践能力を養う。					
実習目標 1. 不可逆的で慢性的な経過をたどる疾患をもつ患者の健康上の問題と生活への影響を根拠を持って理解できる。 2. 患者の残存機能を活かした日常生活動作の自立に向けた患者およびその家族への援助ができる。 3. 患者のセルフケア能力の維持・拡大、生活の質の維持、社会参加に向けた患者およびその家族への援助ができる。 4. 終末期および老年期にある患者と家族が、残された生活を安寧に過ごせるように援助できる。 5. 自己の老年観、死生観について考えを深める。					
実習内容					
<p>1. 内科的疾患を持つ患者の情報収集、分析、健康上の問題の明確化</p> <p>1) 加齢による機能低下や予備力の低下を踏まえて、疾病や障害による身体的影響を症状、検査所見、診察所見から観察・分析する</p> <p>2) 患者を生活者として捉え、疾病や障害が日常生活に与える影響と、生活様式が疾病や障害に与える影響について観察・分析する</p> <p>3) 疾病や障害が患者や家族の社会的役割に与える影響について観察・分析する</p> <p>4) 患者の心理的反応や知識・認知力の程度、介護力から自己管理能力や健康管理能力を分析する</p> <p>5) 疾病が終末への受容段階や自己概念や価値に与える影響について観察・分析する</p> <p>6) 人生の終焉を迎える対象や患者を支える家族を観察・分析する</p> <p>2. 内科的疾患を持つ患者の健康上の問題に対する計画の立案</p> <p>1) 患者や家族の望む姿を明確にし、苦痛の緩和や合併症予防に向けた計画を立案する</p> <p>2) 患者のその人らしさや生活様式を考慮し、QOLの保持・向上へ向けた計画を立案する</p> <p>3) 家族の予期悲嘆や対象の孤独感などの生活背景に配慮した計画を立案する</p> <p>4) 社会資源の活用に着目した計画を立案する</p> <p>3. 計画を踏まえ、状況に応じた方法での実践</p> <p>1) 患者の苦痛の緩和、合併症予防、回復促進に向けた援助を行う</p> <p>2) 患者の認知力や自己管理能力、生活様式、家族の介護力を踏まえた教育を実践する</p> <p>3) 患者に合ったコミュニケーション方法や安全・安楽な援助を行う</p> <p>4) 多職種と連携し、対象を支えるチームの一員として援助を行う</p> <p>4. 根拠をもった評価</p> <p>1) 患者の症状や心理状態の変化から看護を評価する</p> <p>2) 患者の日常生活動作や生活行動に着目し、発達段階を踏まえて対象の変化を評価する</p> <p>3) 患者とその家族の反応からニーズの充足度やQOLについて評価する</p> <p>4) 評価の内容を目標や計画へフィードバックし修正する</p> <p>5) 看護の実践と評価を要約して表現する</p> <p>5. 自主的・主体的学習、研究的態度</p> <p>1) 患者に関心を寄せ、探求心をもって学習し自己の課題を明確化する。</p> <p>2) 患者の生活史を尊重し、思いを寄せた関わりをする</p>					
評価方法					
記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号:90

分野	専門分野 臨地実習(小児看護学)				
科目名(必修)	小児の成長・発達を支える看護実習				
単位数(時間)	2単位(90時間)	対象学年	2年次	担当講師名	
		開講時期	後期	実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション:1時間、臨地実習:81時間、臨地外実習:9時間				
実習場所(時間)	JCHO東京新宿メディカルセンター 病棟・外来(45時間)、保育園(36時間)				
実習目的					
小児の成長・発達過程の理解を深め、あらゆる健康レベルの小児および家族に対する看護実践能力を養う。					
実習目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長発達段階・発達課題をライフサイクルからみて統合的に理解・評価し、適切な援助が実践できる。 2. 小児の成長・発達段階に適した基本的生活習慣および躰の方法を理解し、基本的生活習慣の獲得への援助ができる。 3. 小児と環境との相互作用について理解・分析し、健康阻害因子の除去および健康の維持・増進のための援助ができる。 4. 現代の家族の機能に目を向け、小児にとっての家族の意義を考え、小児観・育児観を深めることができる。 5. 健康レベルに合わせた小児保健医療活動について理解を深める、 6. 保護者、保育士、多職種との連携および組織的な活動の中での看護師の役割を理解できる。 					
実習内容					
<p>I. 病棟(JCHO東京新宿メディカルセンター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害をもつ小児とその家族の情報収集、分析、健康上の問題の明確化と計画立案 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病による身体的影響を分析し、健康上の問題、疾病・治療と成長・発達が相互に与える影響を明確にする 2) 小児の日常生活及び基本的生活習慣の状態を捉え、一人ひとりの発達の状況を明確にする 3) 家族の身体的・心理的・社会的状況や子どもへの思いや願いについて考える 4) 小児に起こりやすい事故(身体損傷)および感染の特徴、誘因について理解する 5) 小児の健康上の問題や発達段階および家族の状況や価値観に応じた目標を設定し、計画を立案する 2. 発達段階・健康状態に応じた小児および家族への看護実践、評価 <ol style="list-style-type: none"> 1) 発達段階、健康状態に合わせた小児へのコミュニケーションを実践する 2) 検査・治療の援助上の留意点を理解し、小児の未熟性を考慮した事故・感染予防行動がとれる 3. 自主的・主体的学習、研究的態度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 児に影響を及ぼす看護師の役割と行動について考える 2) 自己の在り方を省察することで課題を明確にし、主体的に学習・研鑽し看護実践能力を向上する 3) 健康障害をもつ小児の権利擁護について考えると同時に、家族のニード、価値観、育児観を尊重する姿勢で臨む <p>II. 外来(JCHO東京新宿メディカルセンター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成長発達段階をふまえた小児とその家族への診療の補助および指導、健康を促進するための関わりの理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 診察を受ける児の成長・発達と健康状態を理解する 2) 母親や家族など保護者への援助を理解する 3) 外来通院が家族の機能・役割に与える影響を理解する <p>III. 保育所(妙福寺保育園、二葉南元保育園、大泉保育園、緑ヶ丘保育園)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションや遊び、保育園の活動、保育士の子どもとの関わりを通じた小児の成長・発達段階の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 成長・発達段階の観察と分析による援助を安全に留意して実践する 2) 基本的生活習慣の確立への援助を安全に留意して実践する 3) 保育所の機能と役割と家族との連携について理解する 					
評価方法					
記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号:91

分野	専門分野 臨地実習(母性看護学)				
科目名(必修)	生命の育みを支える看護実習				
単位数(時間)	2単位(90時間)	対象学年	2年次	担当講師名	看護師
		開講時期	後期	実務経験	
実習方法	オリエンテーション:1時間、臨地実習:81時間、臨地外実習:9時間				
実習場所(時間)	病棟(71時間)・助産所(10時間)				
実習目的					
妊娠・産婦・褥婦および新生児とその家族を理解し、対象に必要な看護が提供できるための基礎的能力を養う。					
実習目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の生理的な経過と必要な保健指導について理解できる。 2. 分娩期の苦痛緩和を通して、生命誕生の喜び・生命の尊厳について考えることができる。 3. 産婦の生理的変化と心理的変化について理解できる。 4. 褥婦の健康生活の維持と母子関係成立への理解できる。 5. 新生児の胎外生活適応への援助について理解できる。 					
実習内容					
<p>I. 病院(東京山手メディカルセンター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期の援助の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 分娩の進行状態および胎児の生理的変化の正常経過を理解する 2. 褥婦の看護展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母子がより健康に生活するために必要な看護展開する 2) 褥婦の生理的変化を理解し、産褥経過をアセスメントする 3) 褥婦の疲労回復への援助を行う 4) 褥婦の言動や育児行動から産後の心理的変化の理解、母親役割獲得過程の理解する 5) 家族(父親)役割行動と支援体制の評価する 3. 新生児の特徴と生理的変化を理解し、新生児の正常な発育への援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 胎内環境から胎外環境への適応時期の援助を理解する 2) 新生児の生理的特徴や変化の理解し援助する 4. 自主的・主体的な学習研究的態度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命の誕生を厳粛に受け止める態度で臨む 2) 母子および家族に対する尊敬の念を持つ態度で臨む <p>II. 外来(東京山手メディカルセンター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の援助の実際の見学 <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠による母体と胎児の生理的変化の理解する 2) 妊娠期に必要な主な検査と保健指導の理解する <p>III. 助産所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母子の生活を継続して援助するために、地域社会における連携の必要性和活動の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 助産所の地域における機能と役割をりかいる 2) 助産師による周産期にある母子および家族へに援助の実際を理解する 					
評価方法					
記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号:92

分野	専門分野 臨地実習(精神看護学)				
科目名(必修)	その人らしさを支える精神看護実習				
単位数(時間)	2単位(90時間)	対象学年	2年次	担当講師名	
		開講時期	後期	実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション:1時間、臨地実習:81時間、臨地外実習:9時間				
実習場所(時間)	病棟(63時間)、地域活動支援センター(18時間)				
実習目的					
精神に障がいを持つ患者の身体的・精神的・社会的側面への影響をふまえた看護実践能力を養う。					
実習目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障がいを持つ対象の特性と疾患の特性から、健康上の課題と生活への影響を理解できる。 2. 疾患の再燃を予防し、地域での安定した生活を送れるための視点をふまえた援助を考えることができる。 3. 対象の状態に応じた安全な治療的環境が提供できる。 4. 患者が地域で安定した生活を営むために多職種と看護師の役割を考えることができる。 5. 自己を客観視し、コミュニケーションの傾向や特徴を知ることができる。 					
実習内容					
<p>I. 病棟(JCHO東京新宿メディカルセンター)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.精神的な疾患や障がいを持つ対象の情報収集、分析、健康上の問題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> 1)患者の疾患や障がいの経過及びその程度と治療の効果や副作用について観察・分析する 2)精神症状が日常生活や社会生活に及ぼす影響について分析する 3)入院目的や家族背景、生活歴、経済的状态などの社会的側面が及ぼす影響について理解する 4)疾患による症状や治療が及ぼす事故について分析する 5)指導者の患者への関わりを見学し、治療的コミュニケーションや人間関係の構築について理解する 5)対象の問題行動だけでなく健康的な側面にも関心を向ける 2. 精神的な疾患や障がいを持つ対象の健康上の課題に対する計画の立案 <ol style="list-style-type: none"> 1)患者の現在の精神状態と治療方針をふまえた目標を設定する 2)患者の安全を守り、治療的環境を整えるための対策を立案する 3)疾患による症状により影響のある日常生活を支援する計画を立案する 4)退院後の社会復帰に向けた支援について考える 3. 計画をふまえ、状況に応じた方法での実践 <ol style="list-style-type: none"> 1)患者の言語的、非言語的な訴えに注意を払い、コミュニケーションを行う 2)患者の社会復帰に向けた生活と行動特性に配慮した日常生活へ援助を実践する 3)プロセスレコードを通して自己の感情や対人関係の傾向を振り返る。 4. 根拠を持った評価 <ol style="list-style-type: none"> 1)対象との治療的コミュニケーションの状態から評価する 2)対象の日常生活行動および社会復帰への思い、人間関係の変化より評価する 3)看護実践と評価を要約して表現する 5. 自主的・主体的学習、研究的態度 <ol style="list-style-type: none"> 1)その人らしさや健康的な側面に目を向け、常に誠実で受け入れる態度で臨む 2)自己の在り方を省察することで課題を明確にし、主体的に学習・研鑽し看護実践能力を向上する <p>II. 地域活動支援センター(オフィス クローバー、新宿共同作業所ラバンス、まど、ファロ、工房「風」)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域活動支援センターがもつ機能と役割の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1)対象が地域で自立した生活を継続するための施設での活動内容と支援の方法を理解する 2)精神疾患や障がいを持つ人が地域で生活するための多職種との連携について理解する 					
看護実践、記録物、カンファレンス内容を評価基準に基づき総合的に評価し、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

分野	専門分野 臨地実習(看護の統合と実践)				
科目名(必修)	統合看護実習				
単位数(時間)	2単位(90時間)	対象学年	3年次	担当講師名	看護師
		開講時期	後期	実務経験	
実習方法	オリエンテーション:1時間、臨地実習:81時間、臨地外実習:9時間				
実習場所(時間)	JCHO東京新宿メディカルセンター 病棟(81時間)				
実習目的					
既習の知識・技術・態度を統合し、チームメンバーの一員としての看護実践能力を養う。					
実習目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の優先度を考慮して複数の患者への看護を実施することができる。 2. 夜間実習の経験を通して、看護が24時間継続していることが理解できる。 3. 病棟における看護管理を理解できる。 4. チームナースングの中でのリーダーシップ、メンバーシップから看護体制が理解できる。 5. 多職種連携における看護師の役割が理解できる。 					
実習内容					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 多重課題に対する看護の優先度を考慮した援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 緊急性・治療・検査の予定・生活パターンなどを考慮した1日の行動計画を立案する 2) それぞれの対象の問題点に合わせた必要な看護援助を実践する 3) 適時、緊急性・重要性を判断した報告・連絡・相談を行う 4) 患者の意思決定を支え、倫理的な看護を実践できる 2. 夜間の継続した看護活動の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 夜間の看護体制と看護師の役割を見学、一部実践する 2) 昼と夜の患者の訴えや心理状態の違いについて観察し、考察する 3) 円滑な業務遂行のための取り組み(翌日の検査・処置の準備、薬剤管理・準備等)を見学する 4) 夜間における事故の危険性について考察する 5) 夜間の睡眠が得られるための環境を整える 3. 看護管理・看護体制の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟管理者の機能と役割を理解する 2) 病棟の業務および人の管理、看護教育、他部門との連携の実際を明確にする 3) リーダー、メンバーそれぞれの業務・役割を考察する 4) NSTや褥瘡、糖尿病等、医療における多職種連携の実際と役割を考察する 4. 自主的・主体的学習する態度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師が組織の一員としてとるべき態度をもって臨む 2) 自己の在り方を省察することで課題を明確にし、主体的に学習・研鑽し看護実践能力を向上する 					
評価方法					
記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					